

／しらべてみよう／

成長とともに姿が変わる 生きものたち

～チョウ・トンボ・セミ・カエル～

アゲハチョウの仲間

大田区では、公園や街路樹に多いクスノキを食草にするアオスジアゲハに加えて、庭や生垣に多い柑橘類を食草にするナミアゲハやセリ科を食草にするキアゲハを多く見ることができます。季節の変化とともに成長の様子を身近に観察することができます。



卵 初齢幼虫 (種類によって複数回脱皮) 終齢幼虫 サナギ 成虫

トンボの仲間

小学生のとき、プール開き前に半分ほど水抜きしたプールで“ヤゴ救出作戦”を経験した人も多いのではないのでしょうか。排水口に流される前にプールのヤゴをすくって、割りばしや枝を立てた水槽やペットボトルで上手に飼育すれば羽化を観察できます。5月ごろ、池の底にたまった落ち葉をすくって、水の入ったバケツに移して探してみるとヤゴが見つかることがあります。



幼虫(ヤゴ) 羽化 成虫

セミの仲間

夏に人気の大田区自然観察会“トワイライト探検隊”。本門寺公園や萩中公園、多摩川台公園をはじめ、身近な公園にある木の根元に1円硬貨くらいの穴が多くあり、ぬけがらの多い場所を見かけることがよくあります。そのような場所を見つけたら、夕方もう一度その場所に足を運んで、ぜひセミの羽化を観察してみてください。



幼虫 羽化 成虫

ヒキガエル

春にはまだ寒い2月下旬ごろから公園や庭の池、水辺に集まってくるヒキガエルは主にオス。やがてメスが現れるようになると産卵の開始です。その時はやさしく見守ってください。小さなオタマジャクシのまま、手足がはえて陸に上がった子ガエルが、夏の夜に1～2cmほどに成長した姿で出会うかもしれません。

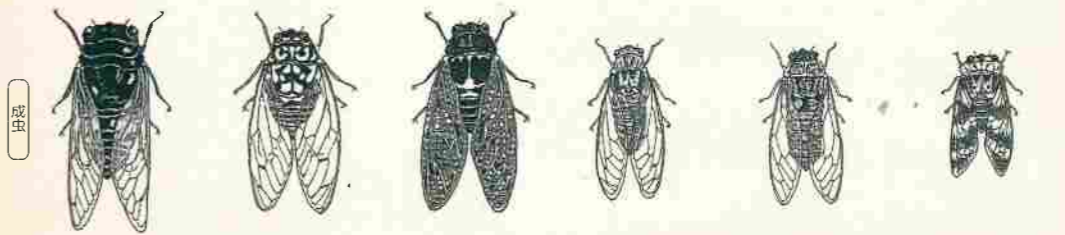


産卵 卵 オタマジャクシ 子ガエル 親ガエル

冬の間に、卵やサナギ、あるいは土や水の中で幼虫の時期を過ごしてきたチョウやトンボ、セミが成虫へと変化するのが見られるのもこの季節の特徴です。幼虫が成虫になるために体の仕組みや形を変えることを“変態”といいます。変態には、チョウのように幼虫から成虫になる途中にサナギになるものを“完全変態”、トンボやセミのようにサナギにならないものを“不完全変態”といいます。ヒキガエルは、産卵時期以外は水辺から離れた場所ですらしています。庭の片隅に小さな水場をつくってあげると、翌春には新たな命と出会うかもしれません。

セミの ぬけがら しらべ

夏の朝、街中や公園を散歩しているとブロック塀や生垣、街路の樹木にしがみつくようにしているセミのぬけがらをよく見かけます。セミのぬけがらといっても、ふとっちょ、スリム、泥まみれ、そしてでべそのあるものまでセミの種類によっていろいろです。ぬけがらを手にとってよく観察してみてください。誰でも簡単に見分けられることに気づくはずですよ。見分け方がわかると朝の散歩に新たな楽しみが加わるのではないのでしょうか。でも、ミンミンゼミとアブラゼミ(ふとっちょ)、ツクツクホウシとヒグラシ(スリム)の見分けには、さらに触角の節の長さの違いをルーペで見る必要があります。



クマゼミ	ミンミンゼミ	アブラゼミ	ツクツクホウシ	ヒグラシ	ニイニゼミ
大型、体は真っ黒。8～9月に見られる。西日本に多く、大田区では最近増えている。	大型、羽は透明。体に緑と黒の模様。7月中旬～9月。大田区では多い。	大型、はねは茶色。7月中旬～9月。大田区では最も多い。	中型、はねは透明。8月中旬～9月。最も遅く発生。大田区ではやや少ない。	中型、はねは透明。7～9月。大田区では少ない。	中型、はねは透明と黒のまだら模様。7～8月。最も早く発生。
<鳴き声> シャウシャウシャウ	<鳴き声> ミーンミンミンミー	<鳴き声> ジーシジリ	<鳴き声> オーツツツクツク	<鳴き声> カナカナカナ	<鳴き声> シー

クマゼミ	ミンミンゼミ	アブラゼミ	ツクツクホウシ	ヒグラシ	ニイニゼミ
体はものすごく大きい。中足と後足のあいだにデヘンのような突起がある。	大型。アブラゼミとミンミンゼミは触覚で見分ける。大田区で見られるセミはだいたいアブラゼミかミンミンゼミのどちらか。	大型、アブラゼミとミンミンゼミは触覚で見分ける。大田区で見られるセミはだいたいアブラゼミかミンミンゼミのどちらか。	小型でほそながい。体につやがない。触覚4節は3節より短い。	小型でほそながい。体につやがある。触覚4節は3節より長い。	小型で丸っこい。体は土で汚れている。

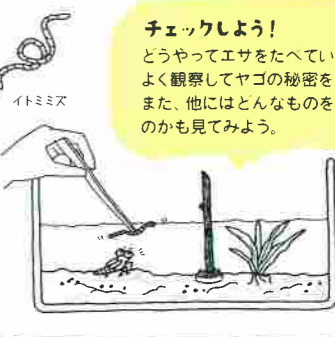


／そだててみよう/ ヤゴの飼いかた

①準備するもの
水そう、イチゴパック、ペットボトル、ジャムのビンなど

②ヤゴのえさ
ヤゴは生きたエサしかたべません。

③飼いかた
ア 容器の中に砂をしきませう。
イ 水を5cmくらいの深さに入れます。
ウ トンボになるとき(羽化)にヤゴが登る木の棒を入れます。
エ 水草を入れます。(水をきれいにします。)
オ えさは2～3日に1回あげてください。(食べのこしがあると水がよくなります。)



チェックしよう!
どうやってエサをたべていますか? よく観察してヤゴの秘密をしよう。また、他にはどんなものをたべているのかも見てみよう。

豊かな森をつくる 土の中の小さな生きものたち

豊かな森は、豊かな土でつくられます。そして、その豊かな土をつくっているのが、土の中の小さな生きものたち(土壌動物)です。子どもに人気のダンゴムシやミミズ、ハサミムシ、足がたくさんあるムカデやヤスデもいます。落ち葉をどけるとピョンと跳ねるヨコエビという扁平な体の生きものもいます。観察が終わったら、また土や落ち葉をかけてあげてください。



オカダンゴムシ オカダンゴムシ科	ワラジムシ ワラジムシ科	チャコウラナメクジ コウラナメクジ科	コウガイビル コウガイビル科
球状に丸まることで子どもに人気があります。人家やその周辺の公園や林の落ち葉や石の下などでよく見られます。落ち葉のほか、乾燥した昆虫、動物の死がいも食べます。ダンゴムシの足、何本かご存知ですか? (巻・14本)	ダンゴムシとよくまちがえられることがありますが、丸まることはできません。体の表面にゴツゴツしたごぶごぶのようなものがあります。えさはダンゴムシとほぼ同じです。	人家の庭先でよく見られる外来種のナメクジ。体の両側に1本ずつ黒っぽい輪がありナメクジ(ナメクジ科)とよく似ていますが、背中にも殻の名ごりと恐れられている硬い部分があります。	公園の石の下などで見つかるようによく見えます。体の大きさは10cmから30cmくらいのひも状の生きもの。頭部は半月型をしており、黄色の目立つオオミスジコウガイビルや黒いクロイロコウガイビルがいます。ミミズやナメクジを捕食します。